

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

**K** 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2013年 11月 No.14

## 今号の内容

- ◇ 国際交流事業助成  
助成事業決定
- ◇ 海外日本語教育サポート事業  
にほんご人フォーラム 2013  
ベトナム中学生日本語キャンプ
- ◇ 高校生短期交流プログラム  
韓国の人々の優しさにふれた1ヵ月
- ◇ 講演会  
愛媛県にて王敏理事講演会実施
- ◇ 大学院留学アジア奨学生  
共に多くを学んだ夏の研修交流会
- ◇ 第5回 中学生交流プログラム  
アジアを知るきっかけ作り

にほんご人フォーラム 2013  
テーマ「便利」についてポスター発表 「みんなで協力しました」



## 国際交流事業助成

### 助成事業決定

2013年度は右のとおり、7事業への助成が決定し、7月29日(月)に交付式・ワークショップならびに昨年度助成事業の報告会を行いました。ワークショップでは、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人氏を講師に招き、助成金を受けるにあつたての心構えや社会のニーズに合った活動を継続していくためのポイントなど詳しくお話をいただきました。懇親会も行われ社会人、学生の皆さんがそれぞれ意見交換し、お互いに刺激を受け、新たな学びのある会となりました。

〈一般公募〉平成25年度(2013) 助成事業一覧(敬称略)

最新の「日本語教材【日本】」(改訂版)を作成し、 中国の大学に寄贈する事業	国際交流研究所
第8回日本台湾学生会議本開催	日本台湾学生会議
カンボジア地雷・不発弾被害者と 日本の学生による国際平和交流事業	一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン
インドネシアー日本 保健・福祉グループワークキャンプ	医療系学生による国際協力隊 euphoria
北東アジア学生ラウンドテーブル 2013	北東アジア学生ラウンドテーブル
日・タイ若手農民リーダー交流プログラム	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター
フィリピン地方都市交流事業	ボシドラ農園

## 海外日本語教育サポート事業

## にほんご人フォーラム 2013 (Japanese Speakers' Forum 2013)

「にほんご人フォーラム 2013」が、9月10日(火)から10日間、国際交流基金日本語国際センター(埼玉県さいたま市浦和区)で実施されました。東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム)と日本の高校生24名と中等教育機関の教師11名が、ともに学び、交流しました。



歓送会 教師と生徒と一緒に日本語の歌を披露

### 「にほんご人フォーラム」とは

かめり財団と国際交流基金の共催事業で、2012年10月の準備会議から始まり、10年を基本想定期間としています。「にほんご人」とは、国際社会において日本語を使って何かを達成したいという意思を持ち、日本語でコミュニケーションをする人々の総称。日本語を使って議論し、協働できる「にほんご人」が増えることは21世紀の日本にとって大きな意味があります。これからの社会で求められる能力の育成を組み込んだ外国語教育のモデルを創造して実践し、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目指して、中長期的な見通しで実施します。

### 高校生セッション

決められたテーマのもと、グループで調査、情報収集活動をし、その成果を発表する学習活動に取り組みました。日本語でのコミュニケーション能力を実感し、自ら学習する能力を高め、様々な場で求められる協働活動でどのような能力が必要なのかを体験を通して知ることが目的です。

本年度のテーマは「便利」。利便性について多面的に捉え、「みんなに便利ですか。いつでも便利ですか。どこでも便利ですか。本当に便利ですか」を考えながら、「便利」な「もの」や「こと」について、もっといい使い方や恩恵を受けない人のための対応策を提案するという課題が与えられました。日本語国際センター周辺の町歩き、私立関東国際高校訪問、1泊のホームステイ、そのご家族と歩いた東京など様々なところで「便利」を見つけ、グループで

課題解決に向けて協働作業を進めました。自国で日本語を勉強していますが、作業に十分なレベルにはまだまだ達していないため、コミュニケーションは日本語、英語、ジェスチャー、絵、そして時々母語でのつぶやきも入って、にぎやかなものとなりました。そして、9月17日(火)に外部からの関係者を招いて行われた成果発表会では、「便利なものとその問題点、改善点」について、どのグループからも高校生らしい元気な舞台発表と力作のポスターが披露されました。「みんなにやさしい町」「交通に便利なもの」など身の回りに溢れている「便利」がみずみずしい感性で掘り下げられていました。

今回の講師は、American School in Japanのアニタ・ゲスリング先生、国際交流基金日本語国際センターの根津誠先生、私立羽衣学園高校の米田謙三先生が担当されました。

### 教師セッション

高校生セッションと並行して行われました。昨年の準備会議に続いて2回目の参加教師たちは、生徒セッションの観察をふまえて、言語や文化学習以外にこれからの社会で求められる能力の育成も取り入れた授業を考えるという課題に挑みました。研修最終日には、それぞれの教育現場の実情に合わせた授業案が発表されました。カリキュラム、クラスの数、日本語能力レベル、教材などの制約がある中、生徒が自ら学ぶことを楽しめる日本語学習が各国で実践されることが期待される発表となりました。

講師は、国際交流基金日本語国際センターの坪山由美子先生が担当しました。

昨年引き続き、カリフォルニア大学サンディエゴ校教授の當作靖彦先生にはアドバイザーとして高校生・教師の両セッションに多大なるご協力をいただきました。

学習者と教師が共に学ぶ新たな試みとして始まったにほんご人フォーラムは会期を無事に終え、多くの成果を生みました。高校生たちの間に芽生えた仲間意識、夜遅くまで自主的に行った発表の練習に代表される彼らのパワーにアジアの明るい未来を感じました。帰国後、体験がクラスや学校で伝えられ、また作成された授業案が実際に授業やセミナーで実施され、「にほんご人」のネットワークが広がることでしょう。「にほんご人フォーラム」は、参加者が各国で活躍する近い未来に向かって、成長型・発展型事業として来年度以降も展開していきます。



ゲームで親交を深める



各国の教師が集まりました



成果発表会 日本語で発表



ポスター発表で、日本語で質問に回答



## 海外日本語教育サポート事業 ベトナム中学生日本語キャンプ

東南アジアにおける中等レベルの日本語教育支援のひとつとして、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの実施する事業に助成しました。このキャンプはベトナムの中学生を対象に、教室活動だけでは得られない日本語学習の楽しさを体感するとともに、既習語彙・文型の積極的な活用を促すことを目的に実施するものです。



ベトナム各都市から中学生集合 一緒に日本語学習



カルタ 誰が一番にとれるか!



アイスブレイキング みんなが仲良くひとつの輪に

### ベトナムの中学生が日本語で交流

報告：かめのり財団 大学生ボランティア 平 博介

8月4日～6日の3日間、ハノイの郊外にて「第1回ベトナム中学生日本語キャンプ」が開催されました。ベトナムの4都市（ホーチミン・フエ・ハノイ・ダナン）で日本語を学習する中学生46名と、現地の学校で日本語を教えている講師の方々に参加しました。

初日は、各都市から参加者が到着した後、アイスブレイキングで親睦を深めました。最初は、出身地ごとで集まっていたが、自己紹介やゲームを通してお互いの顔と名前を覚え、徐々に交流が深まりました。

2日目は、朝6時から全員でアルゴリズム体操を行った後、オリエンテーリングを行いました。中学生は、グループに分かれてキャンプ場に設けられた約10個の日本語タスクをこなしました。学校で習った日本語を使って真剣に取り組む様子が印象的でした。午後は、日本の伝統的な遊びを体験しました。だるまさんがころんだやカルタなどといった日本の遊びを通して、参加者同士の結束力がさらに深まりました。

た。そして、今回のキャンプの締めくくりに、キャンプファイヤーを行いました。フォークダンスやゲームを行い、互いの別れを惜しまました。最終日は、キャンプの振り返りをした後、それぞれ帰路につきました。

このキャンプは、3日間という短い間でしたが、中学生は、日本語を学んでいるという共通点から、より早く友情を深めることができました。また、教室の外で実際に日本語を使うことで、日本語学習の成果や楽しさを実感できたことと思います。

こうした経験が、今後の日本語学習への意欲や、日本への留学を決めるきっかけにつながることでしょ。私自身、高校時代に留学をしていましたが、そのきっかけは中学時代に参加した国際交流キャンプでした。このように、人生の経験はどこかでつながり、振り返ると、点同士が1本の線につながるものです。今回のキャンプは、参加者が日本という新たな世界へ興味を深める第一歩になったことと思います。



息を合わせて アルゴリズム体操



キャンプファイヤー 楽しかった3日間を振り返る

### 「キャンプを終えて」

国際交流基金  
ベトナム日本文化交流センター 指導助手  
郷 垂里沙氏

中学校で日本語教育を行っている4都市14校から中学生を集め、2泊3日のキャンプをするというベトナムでは初の試みでしたが、かめのり財団の西田事務局長、大学生ボランティアの平さん、山縣さんのご協力もあり、大きな問題もなく無事終了しました。生徒が記述したアンケートでは、5段階評価で満足度の平均が4.7という結果が出ており、十分な成果を収めることができました。

アンケート結果からは、当初の目的を果たしただけでなく、他都市の生徒や教師との交流を通じ、日本語学習に対する意欲が高まったことも確認できました。

今回の日本語キャンプは第1回ということもあり、ベトナム日本文化交流センターの日本語教師、各都市のベトナム人教師がすべての企画運営を行いました。今後は、生徒たちにもキャンプ企画の一部を任せてはどうかと考えています。自ら作り上げ、やり遂げる体験は、生徒たちの日本語学習人生にプラスの影響を与えることが期待されるからです。

今後のかめのり財団の支援を受けつつ、ベトナムと日本の架け橋になれる人材を増やしていきたいと考えています。



## 高校生短期交流プログラム 韓国の人々の優しさにふれた1ヵ月



8月に関西地域の高校に通学する5名の高校生が、公益財団法人 YFU 日本国際交流財団の実施により、約1ヵ月、韓国を訪問しました。温かく迎えてくれた多くの人々との出会いを通じて、自分の眼で異なる文化を見て、肌で感じることや交流の大切さに気づくことができた体験を派遣生自身の言葉で紹介します。

### オリエンテーション

初めの1週間は、YFU 韓国の事務所でも韓国語の学習を初め、韓国の文化・歴史や国際交流の重要性について学んだほか、韓国の民謡「アリラン」や「マンナム」を歌詞の意味から教わり、みんなで歌いました。また、欧米からの留学生との交流、課外授業で訪問した仁寺洞(Insa-dong)では伝統的な建物の見学、そして戦争記念館では韓国の戦争の歴史について学ぶ機会を得ました。事務所まで毎日、1時間ほどかけて地下鉄やバスに乗って通いました。路線図を片手に車内に流れる韓国語のアナウンスを注意深く聞きながら、毎日降りる駅を間違えないかドキドキ。バス停を間違えてしまったこともありましたが、それも勉強のひとつになりました。

### 学校での体験

このプログラムの魅力の一つである高校通学。初日には、拍手で迎えてくれ、クラスメイトのみならず、みんなが優しく話しかけてくれました。授業では、日本語の時間があり、発音、流行語、大阪で有名な場所や食べ物を教えると、大阪にも興味を持ってくれ、「ぜひ訪ねてみたい」と言ってくれました。他の授業では韓国語を理解することが難しかったのですが、この授業では少し役に立ったことを嬉しく感じました。週末は、カフェで長い時間おしゃべりをし、ショッピングをして、日本と変わらない友だちとの付き合いに、充実した日々を過ごしました。最終日にはクラスメイトから寄せ書きや贈り物をいただき、再会を約束して、お別れしました。

### ホストファミリーとの生活

これから始まる生活を想像しながらソウルへ向かった派遣生を空港で迎えてくれたのは、「WELCOME!」と書かれたボードを手にした笑顔のホストファミリー。この韓国の新しい家族は、韓国語の先生であり、日常生活を共にし、1ヵ月の異文化での生活を支えてくれた大きな存在となりました。韓国の就職事情や企業について教えてくれたり、伝統衣装である韓服を着せてくれ、またホストマザーの美味しいお料理をたくさんいただき、韓国の家庭の雰囲気や習慣を直接知ることができました。不足している語彙力を補うため辞書や本を片手に、積極的に会話をするように心がけました。少しずつではありますが、周囲からとびこんでくる語彙の意味がわかるようになり、自分の気持ちも伝えることができるようになってきました。ホストファミリーをはじめ多くの方々に触れ合い、たくさんの刺激を受け、これからの人生において見聞が広がる体験ができました。



仁寺洞でフィールドワーク



色鮮やかな韓服を着ました



最終日にクラスメイトからのメッセージ



みんなで韓国料理の昼食



黒田 有紀

中田 えりか

西原 弥央菜

酒匂 美桜

伊 星夏

## 講演会

### 愛媛県にて王敏理事講演会実施

本年7月、愛媛県松山市で行われた愛媛県農業教育者連盟総会内で、「なぜ中国で宮沢賢治が読まれているのか?—日中相互認識の通路へ—」と題して講演会を行いました。

農業教育に従事する教職員を対象に、農業と関わりが深かった賢治について、王敏理事は作品との出会いや中国で賢治研究が活発化している

現状を初めに紹介しました。読まれている理由として、現代の人々が賢治の作品に出てくる中国の古典に基づいた普遍性を求めていること、人間と自然の相関関係の再考や世界観と生命観への再考などを挙げました。また、作品を通して日本の風土文化に受け継がれた普遍性、東アジア共同体や環境意識と民間信仰について学びを得ることができるとの話がありました。生命やそれに向き合うことの大切さ、自然と共生していくことの重要性についても強調し、それぞれの地域にあった相互学習と発展の構築が大切であると締めくくりました。



王敏理事著書の贈呈

聴講者からは「農業教育にとって大切な話が聞けた」「日本の心、日本の農業教育の本質が理解でき、今、行っていることは間違っていないと確信した」との感想が寄せられました。

## 大学院留学アジア奨学生

### 共に多くを学んだ 夏の研修交流会

本年は、9月下旬に北海道札幌で行いました。奨学生が自主的に企画し、内容に新たな取り組みを加え、初日から充実したものとなりました。仲間としての絆も深まった3日間を奨学生自身の言葉で振り返ります。



奨学生が講師となったミニ講義の様子

**1日目** 9月23日(月・祝)

### 「久々の奨学生全員集合！」

文：張 碩

今日の北海道は秋晴れのいい天気でした。奨学生関東組と関西組が予定通りに札幌で合流。北海道が初めての人も多く、皆仲良く話をしながら、ホテルに向かっていく途中で札幌と自分の住んでいる都市の違いを探し、この北国の独特な雰囲気を感じました。その後、宿泊先のホテルで札幌での学会に参加していた奨学生と合流し、久しぶりに7人が全員集合しました。

この日の研修は、今年の新設コーナーであるミニ講義が行われ、講師となった奨学生が、自分の研究分野に関する専門知識を分かりやすく紹介しました。このミニ講義はとて面白い反響があり、皆から、「分かりやすかった！来年も続けてやって欲しい」という意見がでました。

夜には、奨学生全員で大通公園を散策しながら、札幌の観光名所巡りをしました。そして、夕食会では、皆美味しい料理やビールを楽しみながら、今抱えている生活上、研究上の悩みについて、職員や奨学生同士で話し合い、他人の意見を聞いたり、また自分から助言をしたりして、多くの笑顔溢れる時間となりました。共に行動し、異なる文化が溶け合い、初日は私たちにとって、とても有意義な1日となりました。

**2日目** 9月24日(火)

### 「異なる学問を学び、新たな知識を得た1日」

文：姜 民護

研究進捗発表の日。「蛸壺から抜け出そう!」。今日の研修会のテーマを勝手につけるとすれば、そうしたいと思います。私だけではなく、皆も共感すると思いますが、我々はこれまで「自分の学問のみ」を見てきたのではないのでしょうか。他分野の研究を聞いて「自分の学問外のものをどのように理解し、コメントすれば良いだろう」というふうに、皆、思い浮かべたかと思います。言語学、メディア学、社会福祉学、法学、人間・環境学のような異なる学問をただ1回の発表で理解することはできません。しかし、質疑応答、意見交換などを通して他の学問を理解しようとした姿と、異なる国や文化の中で育った者たちが集って相手のことを受け入れ、理解しようとする姿が似ていると感じました。自分の学問から、自分の国や文化から抜け出して、他の学問や文化などのような「異なること」を受け入れ、理解しようとすることは、まるで、蛸壺から抜け出そうとすることと似たような感じがしました。その意味で、今日は奨学生の皆が一層成長できる機会になりました。

**3日目** 9月25日(水)

### 「実りある3日間を来年へ」

文：Htet Htet Nu Htay

今日は、あいにくの雨で肌寒い1日でしたが、バスで札幌場外市場や小樽市を訪ねました。活気ある場外市場では新鮮な海産物が、落ち着いた雰囲気のある街、小樽では、おいしそうなおスイーツやきれいなガラスのお店がたくさんあり、皆、それぞれ堪能しながら思い思いに時間を過ごし、3日間を終えました。

今回は、博士後期課程2年以上に在籍する学生がミニ講義を担当し、それぞれの学問に関する入門書を何冊か読んだことと同量の知識が得られました。また、研究発表では、さまざまな分野の人々が集まる場で発表するからこそ多くの斬新なコメントがでて、お互いにより良い方法で研究が進められるよう積極的に意見交換をしました。

そして博士論文の中間提出が済んだ奨学生から「修士・博士課程」と言った学位取得プロセスについて自分の実体験を踏まえた講義があり、皆で研究生生活に対する話し合いを行い共有することができました。

今年は、昨年よりもレベルアップし得るものが多くあり、今後もこのような研修交流会ができるよう皆で協力していきたいと思います。



ミニ講義 質問に熱心に答えました



専門的な用語をわかりやすく説明



北海道の幸も楽しんだ3日間



多くのアドバイスができました



### 【参加者リスト】

- 金 旻貞 (Kim, Min Jung / 京都大学大学院)
- 徐 寧教 (Suh, Young Kyo / 東京大学大学院)
- Htet Htet Nu Htay (東京外国語大学大学院)
- 姜 民護 (Kang, Min Ho / 同志社大学大学院)
- 周 鑫 (Zhou, Xin / 一橋大学大学院)
- 金 智愛 (Kim, Ji Ae / 立命館大学大学院)
- 張 碩 (Zhang, Shuo / 大阪大学大学院)



## 第5回 中学生交流プログラム アジアを知るきっかけ作り

日本とベトナムとの間で外交関係を樹立してから40周年にあたり、日本ベトナム友好年を記念して、日本の中学生8名が、一般社団法人国際フレンドシップ協会の実施により、10月6日(日)から8日間、ベトナムを訪問しました。



国際交流基金ベトナム日本文化交流センターを訪問



ホーチミン廟を訪問 銅像の前で



ベトナムの中学生が書道に挑戦

### 異文化を知る楽しさを体験

出発前日、引率の山本伸団長と全国から集まった団員全員が初めて顔を合わせ、結団式と事前研修が行われました。うまくやっつけられるかと不安を感じていましたが、研修が進むにつれ、打ち解け、笑いが絶えないほど仲良くなりました。結束を固め、ベトナムへ出発。



ベトナム教育訓練省を表敬訪問



ホストファミリーと最後の夕食会

滞在中は、ハノイ、ダナン、フエと日本とは全く違う風景の街を訪ねました。ハノイでは、教育訓練省の表敬訪問と国際交流基金ベトナム日本文化交流センターで稲見和己所長によるスライドを用いたベトナムに関する講義を受けました。街には、日本の会社の看板や車よりバイクを利用する人々が多いこと、そして信号と横断歩道のない道路を渡ることなど、驚きの連続でした。フエで訪ねた街最大のドンバ市場では、交流した中学生の皆さんが、買い物の値段交渉を手伝ってくれました。ものを一つ買うのに交渉が必要なのがとても興味深く感じられました。このほか、ホーチミン廟や博物館、ベトナム戦争での破壊の跡が残るフエの王宮を見学し、ベトナムの社会、歴史と文化を自分の目で見て学びました。

さらに、同世代の交流を目的にハノイのリー・トゥオン・キエツ中学校とフエのグエン・チ・フオン中学校を訪問。ベトナムの中学生が「ドラえもん」など日本の歌で歓迎してくれ、外国

語である“日本語”で上手に歌ってくれたことが印象的で、また、日本語や化学の授業見学では、積極的に発言をして勉強している姿勢に、「見習わなくては」と強く心に残りました。日本文化紹介では、茶道のお点前を披露し抹茶を味わってもらい、書道はベトナムの中学生も挑戦し、筆を上手に使いながら日本語を書いてくれました。

最後の3日間はホームステイ体験。ホストファミリーとは、色々な話をし、朝食に屋上で伝統料理であるフォーを食べるなどベトナムならではの体験をたくさんしました。お別れする時は悲しくもっと一緒にいたいと感じたことで、短期間でもこんなにも深い交流ができることに素晴らしさを覚え、実際に訪問して人々と交流することの重要性を実感しました。

充実した内容で同じアジアに住む人々の生活に自ら触れ、感じたことにより、アジアを知るための第一歩を踏み出し、さらなる興味へとつながりました。

### 今後の予定

- 11月 第5回中学生交流プログラム ベトナムから受入
- 1月 かめのりフォーラム2014(第7回かめのり賞表彰式)開催  
【高校生短期】第6期生 韓国・中国から来日
- 2月 【高校生長期】第7期生受入生帰国

### << 編集後記 >>

大学院生の夏の研修交流会では、職員と奨学生がひとつの家族のような絆を深められたと感じる。奨学生先輩がリラックスした雰囲気づくりをしてくれたことにより、個性あふれるそれぞれの一面を新たに知る機会となった。昨年から1日プラスされた研修交流会は、研修の充実のみならず、皆が同じ輪の中ですら楽しさをプラスしてくれた。(菊地)

発行人 / 西田 浩子  
編集 / 菊地 佐智子  
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)  
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/